

はじめに

「撰銭」の発生から近世三貨体制の成立に至る中近世移行期の貨幣の問題を取り上げ、大内・毛利氏領国を中心に、貨幣流通の実態とそれに対する公権力の対応の歴史的展開を、一般社会における貨幣流通の実態（錢貨流通や銀の浸透、さらには米の機能）だけでなく、公権力の財政や権力編成について具体的に考察することにより、貨幣の視点から石高制の成立背景とその意義について明らかにする。

一 戦国社会における錢貨－大内氏領国を中心に－

1 錢貨をめぐる諸権力と地域社会

精錢獲得に積極的な領主階級…外国貿易も含めた遠隔地交易 大名財政における需要
一般流通錢で充足されている地下百姓…「当時通世錢」「当国諸売買錢」で生活
「清料」額は基準額で、実際には「並錢」による相当額が通用
撰銭をめぐる<領主>対<地下>の対立関係を反映 広域公権力（大名権力）の対応

2 錢貨通用の実態

16世紀前半、大内氏領国では「清料」－「当料」－「和利」の概念・通用慣行存在
低品位錢貨の流通参加で流通錢貨間に価格差→良質錢貨による収納基準額が成立
年貢正税やそれを担保とする借錢が「荒錢」を含む「並錢」額のもとで動く
在地における錢貨通用としては、低品位錢貨の優位性が確認される

二 錢・銀・米をめぐる権力と社会－毛利氏領国を中心に－

1 継承基準額と領国支配

毛利氏は、継承基準額「古錢」（段錢額・仏神事料）を前提に領国支配
「当料」額への換算値「和利」の最終決定権を握ることで領国の公儀たりえる
領国内諸地域の基準額は、貫高も含めて不均質 不均質な基準額の併存状態
統一的な施策を実施するためには、不均質な基準額の均質化・統一化が重要課題

2 南京錢と鍛（ちゃん）

低品位である「南京錢」が毛利氏領国では広範に流通 段錢の納入錢貨としても使用
南京錢とは価格水準が異なる（高価格）錢貨である「鍛（ちゃん）」も流通・通用
多様な錢貨が流通する社会 人々も自然に対応

3 銀の浸透と諸権力

16世紀後半、銀は毛利氏領国で広範に浸透し始める 文禄・慶長期には深く浸透
兵糧合力銀（銀での軍事支援）…永禄・元龜年間から確認でき、天正年間に活発化
大名財政において軍事および対中央政界工作に大量の銀が必要

主要財源：石見銀山・防長段錢・直轄領年貢・商人からの借り入れ 不安定

4 米の機能と諸権力

多様な錢貨が流通し、錢貨の信用が低い時代にあつて、米の需要・相対的価値は高い
錢貨や銀に換金が容易なだけでなく、貨幣的機能もあわせ持つ 米で生活物資を購入

大名財政において銀と同様重要 戦時の兵糧&平時の普請米 多様な用途 段銭米
主要財源：銀と同様 不安定 慢性的な財源不足 抜本的な見直しが必要！

三 貨幣流通と石高制

1 織豊政権の貨幣政策と石高制

織田政権：永禄12年令：当時の銭貨流通状況を前提に公権力として法文化
段銭・地子銭・公事銭&金銀唐物絹布質物五穀…時の相場
諸事の取り交わし 精銭と増銭を半分宛

追加令：米の貨幣的使用の禁止

唐物ほか高額商品は金銀もしくは善銭取引 金銀の通貨使用を公認
天正年間に入り、領国内の「段銭諸成物（諸納所）」に収納規定設定
生野銀山の直轄化 金銀と米による財政運営

石高制への萌芽：畠銭の石高換算（天正5）、銭地子を米換算（天正8）

豊臣政権：国内金銀鉱山の掌握と金銀の上納体制確立 長崎直轄化と貿易統制
金銀と蔵米の活用による財政運営 法貨としての金銀貨の発行
銭貨政策 長浜惣中宛8/18秀吉朱印状（東京大学史料編纂所影写本「南部文書二」）
「於当所新銭鑄之由曲事候、自今以後堅可停止者也」

天正18 永楽銭と金およびビタとの換算規定

天正20 次夫・次馬・次飛脚・次船制での精銭規定

権力編成に石高制を採用：分銭の石高換算、京升による量制の統一

2 地域大名の権力編成と石高制

I. 毛利氏の惣国検地と石高制

天正惣国検地は基準銭「鍛」と基準升「京升」を構成要素とする石貫制を採用
継承基準額の均質化 領国規模での統一的な知行制および軍役賦課体制を確立
段銭は天正検地から文禄石改めの過程で基本的に整理、慶長検地で最終的に消滅
石高を基準とする領国規模での一律の賦課体制も確立 財政上、財源の安定化

II. 筑前小早川領の指出・検地と石高制

小早川氏の指出徴収と知行宛行・所領寄進 「分古銭」額の石高への換算
山口玄蕃宗永の太閤検地と石高制の導入

III. 徳川氏の関東入部と石高制（省略）

永楽銭を基準とする貫高制の存在 徳川氏による石高制の導入

3 近世初頭の貨幣状況

江戸幕府の貨幣政策 藩領における貨幣状況 地域銭貨の終焉

おわりに

中近世移行期：「撰銭」が常態化 多様な銭貨が流通 銭貨信用が相対的に低下
金銀が高額貨幣として社会に浸透 米が銭貨の代替的機能を果たす
諸階層の人々はこうした社会経済状況のなか、個々の課題に直面し、個々に対応
統一政権や地方大名権力は当該期の貨幣・米の状況をふまえて財政運営や権力編成を摸索
→金銀と米を中心とする財政運営、権力編成の基本原則として石高制を採用